



※実際の色は緑色です

60点もの応募の中から選ばれた、福住地区のシンボルマーク「ふくちゃん」。ひらがなの「ふ」を使い、福住の住民の笑顔を表しています。町内会の旗やTシャツになるなど、さまざまな場面で活躍中です。

福住連合まつりのもう一つの特徴は、人と人との交流を大切にしていることです。綱引きなどのレクリエーション競技を通じて、普段交流のない人たちと触れ合い、共に汗を流すことで地域の団結が一層強まっています。

地域の交流の場として

毎年8月の最終日曜日に行われる福住連合まつり。今年で32回目となる伝統的な行事で、運動会のようなレクリエーションと子どもみこしがメインの、特徴あるお祭りです。毎年参加者を増やし、今年は2千人以上が参加する、とても大きなお祭りになっています。

人の輪をつなげる 福住連合まつり

▼子どもみこしはお祭りのメイン！
大きな歓声に包まれます。



福住最大の行事

また、毎年、その年を象徴するものをモチーフとする子どもみこしは、子ども会に大人たちが力を貸して作り上げるものです。大勢での共同作業は、子どもたちにとってとても貴重な経験になっています。「連合まつりは地域を團結させ、人の輪をつなげるために、みんなで大事にしている行事です。そのため、こんなに長く続いて、伝統になったのではないでしょうか」と福住地区町内会連合会の荒木会長は語ります。

◀町内会の旗が一斉に並ぶと壮観です。



福住地区は自然豊かなまちです。地下鉄福住駅や札幌ドームができてから、福住を訪れる人も住民も増え、さらに活気づいています。

これからも、「自然と人の和と輪を生かす」ようなまちづくりを進めていきます。



福住地区町内会連合会
会長 荒木 勲さん

▶キャンドルの明かりが雪道を行く人の心を温めます。



福を招く氷の灯火^{ともしび}



福住の冬の風物詩といえ、柔らかな光がきれいなアイスキャンドルです。

福住に冬のイベントを増やして地域を盛り上げたい、という思いから始めたこの取り組み。初めは空き地などで小規模に行いましたが、今では毎年、実行委員会が組織され、寒い冬に欠かせない大イベントとなっています。

大みそかの夜から1月2日にかけての3日間、福住まちづくりセンターと福住厳島神社の周辺にイルミネーションと350個のキャンドルが灯り、行き交う人々を幻想的な世界へと誘います。また、1月後半にはウエルカムキャンドルとして、地下鉄福住駅からドーム前広場までの間に千数百個のキャンドルが揺らめき、まちに彩りを添えます。

